

AOTO HOSPITAL NEWSLETTER

東京慈恵会医科大学附属青戸病院 青戸病院だより

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸 6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表) URL <http://www.jikei.ac.jp>
E-mail: aotokouhou@jikei.ac.jp

2011
No.23

(仮称)
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター

INDEX

- 01. 新病院建築状況について
- 02. 診療部門紹介～新病院への展望～ 消化器・肝臓内科
- 03. 診療部門紹介～新病院への展望～ 外科
- 04. 慈恵医大青戸病院 医療連携フォーラム2011開催 - 編集後記

新病院建築状況について

新病院の建設につきましては、皆様からの深いご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

新病院の工事は大変順調で、昨年からタワークレーンを導入し、今年2月に最上階までの鉄骨建て方工事が終了しました。一般の木造住宅の建築に例えると「柱の組み立て(棟上げ)」が終了したということです。現在は、躯体工事から、外装、内装などの仕上げ工事に移っております。最近、当院を来院される皆様からは、建設中の新病院を目にされた折りに「楽しみですね」、「早く完成するといいですね」などの激励の言葉を多数かけていただいております。

建物は、今年10月に完成し、来年1月から(仮称)東京慈恵会医科大学葛飾医療センターとして、リニューアルオープンする予定です。新病院の西側には、完成予定が同時期である建設中の東京スカイツリーが日々露に聳え立ちます。完成した新病院からは、中川や隣接する公園の緑、東京スカイツリーの都会的な眺

望を楽しむことができます。疾患と闘っている患者さんの心を少しでも癒すことができれば幸甚です。

現在も教職員一同一丸となり、地域の中核病院として、安全で質の高い医療の提供を第一とし、進化、創造し続けるため、日夜懸命に取り組んでおります。まだしばらくは工事が続き、皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、今後も引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(仮称) 東京慈恵会医科大学
葛飾医療センター

平成24年
リニューアル
OPEN予定



南東側外観図(川堤防が写)



病室



1Fエントランス吹抜け

INTERVIEW

診療部門紹介～新病院への展望～

消化器・肝臓内科



●消化器・肝臓内科
消化器・肝臓内科診療部長
相澤良夫

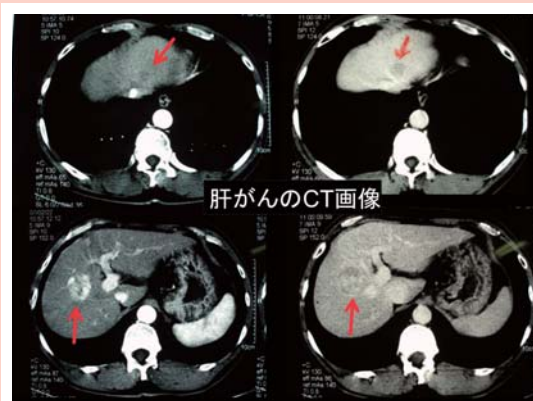
青戸病院に消化器・肝臓内科が設置されましたのは2000年4月です。以来、当科は一貫して、地域の基幹病院にふさわしい、地域完結型の質の高い医療を提供するよう努めてまいりました。消化器・肝臓内科が扱う分野は

食道、胃に始まり大腸、直腸に及ぶ消化管に加え、胆嚢、胆管、膵臓、肝臓など大変幅広く、疾患の種類も慢性疾患から緊急性の高いものまで多様です。また、外科、内視鏡科、放射線科などと協力し治療を提供する必要がある疾患も少なくなく、多様な対応が必要とされる診療科ですが、どの分野におきましても、均質でレベルの高い医療を提供するよう努力しております。常勤医師は8名で、月曜日から土曜日までの毎日、午前および午後に来来を行っておりますが、原則予約制とさせていただいておりますので、初診の場合は紹介状をお近くの先生に書いていただき、なるべくFaxで予約を取っていただくことにより、スムーズな診療が提供可能となりますので、御協力をお願い致します。

当科は、原則として消化器に関連したあらゆる疾患に対して良質な医療が提供できる体制を整える方針であります。その中で特に頻度が高く、かつ自信を持って全国的に見ても優れた医療が提供可能と考えております疾患は、肝がん、肝硬変や慢性肝炎を含む肝臓疾患全般および炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）ですが、さらに大腸や胃の早期がんの内視鏡的切除や閉塞性黄疸のドレナージ治療は内視鏡科と、肝がんの診断や局所治療（ラジオ波焼灼療法など）は放射線科とも協力し、安全かつ治療効果の確実な医療を実践するよう努めております。特に、細菌感染が合併した閉塞性黄疸や消化管からの大量出血は緊急かつ高度な治療が必要となりますので、そのような場合にも迅速に対応できる体制を外科や内視鏡科と協力して構築しております。

新病院では、私どもの分野におきましても、救急医療の充実と、より高度化した専門的医療の提供が可能になりますので、現在よりもさらに迅速で質の高い医療を実践できるものと考えております。また、新病院では療養環境が著しく改善されますので、入院された場合にも非常に快適な環境で診療を受けていただくことが可能と考えております。ただ、残念ながら開院当初には放射線治療機器導入の計画がございませんので、内科的治療が必要な食道癌など放射線治療が必須の疾患につきまして

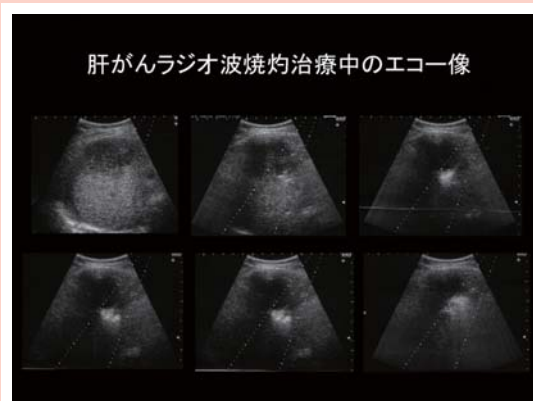
は、大変申し訳ございませんが、当面は原則として西新橋の附属病院など他院での治療をお願いすることになるかと考えております。



肝がんのCT画像



肝がんの動脈造影



肝がんラジオ波焼灼治療中のエコー像



●外科
外科診療部長 吉田和彦

外科

新病院への展望

青戸病院外科は現在、15名のスタッフと研修医によって運営されています。救急部と一体化して、地域中核病院としてのニーズに応えるべく、「いつでもどこで起こるかわからない病気とけが」に的確に対応でき、

しかも診療が完結できるユニットの構築を目指しています。外科の2010年の実績は、外来患者数24,707名（初診患者数2,618名）、新入院患者数1,678名、手術件数905件（内視鏡的処置を含めると1,030件）、平均在院日数9.7日でした。

来年(2012年)1月5日に開院が予定されている新病院（仮称：慈恵医大葛飾医療センター）における外科の展望について以下に述べます。

1. 質の高い医療の提供

新病院の放射線部には最新型のCT2台、MRI2台（開院当初は1台）、SPECT-CT1台、血管撮影装置2台（開院当初は1台）、多数の超音波診断装置、などが設置されます。また内視鏡部のユニットも一新されます。さらに新病院の手術部には8つの手術室と血管内治療対応手術室が設置され、集中治療室(CCU/CCU)として14床が付設されます。これらの設備を用いることにより、より重症な外科的処置を必要とする、より多くの患者さんの受け入れが可能となります。

2. 救急患者さんへの対応

新病院では1階にプライマリーケア（初療）ユニットを配し、直接来院される、あるいは救急車で搬送される患者さんを常時受け入れます。プライマリーケアユニットを構成する救急部、総合内科、小児科と連携し、外科的処置あるいは緊急手術が必要とする患者さんに迅速に対応します。

3. 患者さんに優しい手術の導入

8つの手術室の内、4つは内視鏡手術対応手術室となり、ハイビジョンユニットと複数のモニターが設置されます。最新の器具を用いて、安全性の高い胸腔鏡下手術（胸を開けない手術）や腹腔鏡下手術（腹を開けない手術）を行います。また、乳がんにおいては、乳房温存手術とセンチネルリンパ節生検（不要な脇の下のリンパ節切除をしない）を積極的に行うことにより、患者さんの負担を軽減し、整容性を高めます。

4. 悪性腫瘍（がん）に対する治療の高度化

食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん、乳がん、甲状腺がん、肺がんなどの悪性腫瘍に対しては、各々の分野のエキスパートが診療を担当します。10床を有する外来化学療法センターの設置により、抗がん剤治療を必要とする患者さんを集約し、高いレベルでの集学的治療を実現します。

TOPIC



研修医 互健二先生 第22回日本脳循環代謝学会総会にて優秀発表に選出される

平成22年11月26日より大阪千里ライフサイエンスセンターにて2日間にわたり開催された第22回日本脳循環代謝学会総会において、当院研修医である互健二先生の演題、「認知症におけるvbSEEを用いたvoxel-based-morphometry解析の有用性」が、優秀発表として学会誌への掲載推薦論文に選出されました。

本論文は互先生が神経内科において主治医として担当したAlzheimer型認知症やLewy小体型認知症などの脳ECD-SPECTデータから、解剖学的異常領域について定量的あるいは定量的な統計学的解析を検討したものであります。

認知症診療は、脳の形態的な変化を検証するだけではいまや不十分で、これからは機能異常を発症早期にいかにつえうかが本領域の命題となっております。

互先生の臨床研究は、こうした新規性が高く評価された結果と推察され、今後のさらなる飛躍に期待したいと思います。（神経内科 鈴木正彦）



研修医 互健二先生

慈恵医大青戸病院 医療連携フォーラム2011を開催いたしました

青戸病院は患者さんの紹介や医療に関する講演会を通じて、地域の医療機関（診療所や病院）との連携を行っています。この医療における連携を強化する目的で、平成23年2月19日（土）に「慈恵医大青戸病院 医療連携フォーラム2011」を開催し、地域の医療機関の方々に参加していただきました。

冒頭、伊藤 洋院長の開会の挨拶から始まり、児島 章副院長による「新病院建築における概要説明」および総合内科 根本 昌実診療部長による「生活習慣病に関する最近の話題」について講演が行われました。

第2部懇親会では、葛飾区医師会副会長 安藤 進先生より来賓のご挨拶をいただき、改めて地域における医療機関相互の結びつきの大切さを実感いたしました。

その後、当院各診療科診療部長の挨拶があり、ご参加いただいた33医療機関49名の方々と当院より出席した59名が懇親を深めました。普段は電話や紹介状でしか連絡をとれない先生方と直接会って話す機会を得て、「顔の見える医療連携の推進」を図ることができました。

この医療連携フォーラムは地域の先生方に大変ご好評をいただいております。次年度以降も開催する予定です。

※本医療連携フォーラムは日頃より当院に多数患者さんをご紹介いただいている医療機関の先生方にご案内させていただいております。



編集後記

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震におきまして、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。

青戸病院においては患者さんおよび教職員に被害は無く、院内施設にも大きな損壊はございませんでしたが、引き続き余震や計画停電への対応に教職員一同で対応してまいります。患者さんにおかれましては、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。（3月17日）